

ポ レ ポ レ
P O L E P O L E

※スワヒリ語で「ゆっくり・ゆっくりに」の意味

美深町特別支援連携協議会

研修部会報（理解啓発部） No.1

文責 高橋 幸也（美深中学校）

美深町特別支援連携協議会の研修部会では、定期的に事例検討や研修報告、近隣の連携協議会に関する情報提供などを行っています。その中の理解啓発部では、特別支援に関して広く活動を知ってもらおうと、今年度から部会報を発行することになりました。

この通信の主な内容としては、美深町の特別支援に関わる各関係機関や小中学校への取材を行い、広く美深町の特別支援に関わる方々の現状を知っていただき、明日からの実践に少しでも役立てていただければと思います。

第1回目は、美深町にある「美深子ども家庭支援センター」の相談員堀昌代さん・石塚翔平さんにインタビューをさせていただきました。その内容について簡単に報告させていただきます。（一聞き手は高橋。「お話」は堀さん・石塚さんです）

ー 美深こども家庭支援センターについての概略を教えてください

「仕事の中心は、虐待の予防に関することです。全道には、11ヶ所の支援センターがあり、ここは上川・宗谷・留萌管内を対象としております。保護者や児童生徒、地域住民からの電話相談に応じることが主な仕事ですが、虐待に限らず、いじめや不登校など、子どもの成長の相談全般に関しても受け付けております。また、児童・生徒に関する学校の先生からの相談や、非常勤で各寄短大の専門心理士が各種発達検査を行っております。。基本的に24時間体制で対応しています」

ー このお仕事で大切にしていることは何でしょうか？

「虐待については、様々な背景や連鎖といわれていますが、そのような環境の中にあっても、豊かな心で子育てを行っている方もたくさんいます。そういう方々は、『どういう人と出会い・どういう関わりを受けてきたか』ということが、大切な事だと思います。相談をしていただく方に、理論や理屈で説明ではなく、まずは、電話をかけていただいた方に『よく相談してくださいました。大事な一歩を自分で踏み出されましたね』と認めてあげる事が大切だと思います。誰もが認めてほしいですね。それは子育ても同じだと思います。まずは親の思いを知ってあげること、認めてあげることから相談活動を始めています。一本の電話が『意味のある出会い』になっていければと考えています」

ー 最後に、何かあれば一言お願いします

「私自身、色々なケースに対応させて頂く中で、『これでいい』という対応はありません。10の家庭があれば、10の対応があります。電話の相談は実際にお会いすることも少なく『どんなお手伝いができ、前向きに子育てができるのか』ということを考えて対応させて頂いてます。いろいろな家庭がある中で、人とのつながりを大切にしていきたいと考えております」

最後に、「気軽に当センターにお茶でも飲みに来てください」と、堀さんはお話してくださいました。私自身も今回の取材でつつい長居して、たくさんお話をさせていただきました。

「お話をすることで元気が出てくる」そんな取材でした。

※ 美深子ども家庭支援センター

住所： 〒098-2237 北海道中川郡美深町字若松町2番地1

電話： 01656-9-2500